

富田林市文化財調査報告75

令和3年度

富田林市内遺跡群発掘調査報告書

2022. 3

富田林市教育委員会

例　言

1. 本書は、令和3年度国庫補助事業「市内遺跡緊急発掘調査事業」の報告書である。
2. 本事業は、富田林市教育委員会文化財課が、令和3年4月1日から令和4年3月31日にかけて実施した。本書の第2章以降の調査成果については、令和3年12月28日までに整理作業が完了したものを掲載した。
3. 令和3年度の現地調査および整理作業については、同課職員 角南辰馬・林 正樹、同課非常勤職員 渡邊晴香・西村雅美が担当した。
4. 第2章以降に掲載分の現地調査および整理作業は、角南が担当した。また、本書は第1章を渡邊が、第2章を角南が執筆し、編集は渡邊と角南が行った。
5. 本書に掲載分の現地調査および整理作業には、以下の者の参加と協力を得た（敬称略）。
宇都宮基予美、貴志正則、土山賀代、山地美生、吉末咲穂
6. 現地調査にあたっては、土地所有者をはじめとする関係者のご理解、ご協力を得た。感謝の意を表したい。
7. 調査にあたって作成した実測図、写真、出土遺物については、富田林市教育委員会で保管している。広く活用されることを望むものである。

凡　例

1. 本書に掲載した標高は、東京湾標準潮位（T.P.）に基づく者であり、紙面の都合上で数値のみの表記とした。
2. 現地調査で作成した平面図の方位は、磁北によるものである。
3. 土色の色調は、『新版標準土色帖』（小山正忠・竹原秀雄1986）を使用した。
4. 遺構記号については、現地調査ではその種類に関係なく通し番号をF1、F2、F3、・・・と付与した（Fは遺構を意味するfeatureの頭文字）。本報告書の掲載にあたっては、混乱を防ぐため通し番号はそのまま活かし、Fを遺構の種類を表す記号に置き換えた。遺構記号は下記の通りである。

S P：ピット（紙面の都合上、番号のみ表記している場合はS Pを指す）
S X：性格不明遺構
5. 参考・引用文献は、巻末に記した。

目 次

| | |
|---------------------------------|----|
| 第1章 令和3年の調査····· | 1 |
| 第2章 錦織遺跡（NK 2 0 2 0 - 1）の調査 | |
| 第1節 調査の経緯と経過····· | 5 |
| 第2節 調査の成果····· | 8 |
| 第3章 甲田南遺跡（K D S 2 0 2 0 - 1）の調査 | |
| 第1節 調査の経緯と経過····· | 9 |
| 第2節 調査の成果····· | 10 |
| 第4章 喜志南遺跡（K S S 2 0 2 0 - 2）の調査 | |
| 第1節 調査の経緯と経過····· | 12 |
| 第2節 調査の成果····· | 15 |

挿 図 目 次

| | |
|--|----|
| 図1 遺跡範囲拡大地点（S=1/5,000）····· | 3 |
| 図2 市内遺跡分布図（S=1/40,000）····· | 4 |
| 図3 調査位置図（S=1/2,000）····· | 5 |
| 図4 トレンチ配置図（S=1/200）····· | 7 |
| 図5 トレンチ北壁断面図（S=1/40）····· | 7 |
| 図6 調査位置図（S=1/3,000）····· | 9 |
| 図7 トレンチ配置図（S=1/200）····· | 10 |
| 図8 トレンチ平面図（S=1/50）····· | 10 |
| 図9 遺構断面図（S=1/20）····· | 10 |
| 図10 トレンチ東壁および南壁断面図（S=1/40）····· | 11 |
| 図11 周辺の遺跡（S=1/10,000）と調査位置（S=1/4,000）····· | 12 |
| 図12 調査区配置図（S=1/200）····· | 14 |
| 図13 遺構平面図（S=1/50）····· | 14 |
| 図14 遺構配置図（S=1/20）····· | 14 |
| 図15 出土遺物実測図（S=1/4）····· | 15 |

表 目 次

| | |
|---------------------|---|
| 表1 発掘届（通知）受理件数····· | 1 |
| 表2 発掘調査一覧····· | 2 |
| 表3 試掘調査一覧····· | 2 |

写 真 目 次

| | | |
|-----|--|----|
| 写真1 | 2015年度調査地の葺石（北東から） | 6 |
| 写真2 | 2015年度調査地の土層断面（北から） | 6 |
| 写真3 | トレンチ全景（北から） | 11 |
| 写真4 | S P 1 土層断面（南東から） | 11 |
| 写真5 | 2014年度調査地（中央下）と今回の調査地（矢印）（北から、2015年5月撮影） | 13 |
| 写真6 | 2021年度調査地（中央が2021-2地点）と今回の調査地（矢印） (北から、2022年1月撮影) | 13 |

図 版 目 次

図版1 錦織遺跡（N K 2 0 2 0 - 1）

トレンチ近景（南東から） トレンチ北壁（南東から） トレンチ北壁（南西から）

図版2 甲田南遺跡（K D S 2 0 2 0 - 1）

遺構完掘状況（北西から） トレンチ東壁（北西から） トレンチ南壁（北東から）

図版3 喜志南遺跡（K S S 2 0 2 0 - 2）

遺構完掘状況（西から） 遺構完掘状況（東から）

図版4 喜志南遺跡（K S S 2 0 2 0 - 2）

遺構完掘状況（北東から） 出土遺物

第1章 令和3年の調査

令和3年1月から12月において、文化財保護法第93条（民間開発）・94条（公共工事）に基づく発掘届・発掘通知のあった件数は、表1のとおりである。書類の受理総件数は188件で、昨年度の186件と大差はない。このうち、民間開発に伴う発掘届出件数をみると170件で、昨年度に比べて11件増加している。届出原因別の増減をみると、住宅関連の届出件数が増加しており、特に個人住宅が14件、ガスが12件増と突出している。対して、公共工事に伴う通知件数については18件で、前年度は27件であり、9件減少している。これらの発掘届・通知を受けて行った発掘調査は20件で、そのうち民間開発による4件（表2-4・7・13・17）と、国庫補助による3件（表2-1・3・5、第2～4章で報告）については、本調査を実施した。

埋蔵文化財包蔵地外における試掘調査については10件実施した。そのうち1件で遺構と遺物を確認し（表3-10）、本調査を実施した（表2-17）。これは宅地造成に伴う試掘調査で、従来の喜志南遺跡の範囲から北へ約60m離れた場所に位置する。通常であれば新規発見遺跡として登録するところであるが、今回の試掘調査結果により遺跡の性格が喜志南遺跡と同様であると判断し、喜志南遺跡の範囲拡大として登録した。ただし、遺跡範囲はそのまま拡大するには離れているため、飛地状に遺跡範囲を拡大した（図1）。この喜志南遺跡以外に新たに遺跡範囲拡大となったのは、桜井遺跡（表2-7）、畠ヶ田遺跡（表2-9）の2カ所である（図1）。桜井遺跡は宅地造成、畠ヶ田遺跡は共同住宅を調査原因とする発掘調査である。

表1 発掘届（通知）受理件数

| | 発掘届（93条） | | | | | | 発掘通知（94条） | | | | | | 合計 |
|-------|----------|----|-----|----|----|-----|-----------|----|----|----|----|----|-----|
| | 事前 | 立会 | 慎重 | 遺憾 | 進達 | 小計 | 事前 | 立会 | 慎重 | 遺憾 | 進達 | 小計 | |
| 道 路 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 6 | 0 | 0 | 6 | 6 |
| 宅地造成 | 5 | 0 | 0 | 0 | 0 | 5 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 5 |
| 個人住宅 | 3 | 22 | 39 | 2 | 0 | 66 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 66 |
| 分譲住宅 | 0 | 9 | 20 | 0 | 0 | 29 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 29 |
| 共同住宅 | 2 | 1 | 0 | 0 | 0 | 3 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 3 |
| 店 鋪 | 3 | 0 | 1 | 0 | 0 | 4 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 4 |
| その他建物 | 5 | 3 | 4 | 0 | 0 | 12 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 1 | 13 |
| 学 校 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 |
| ガ ス | 0 | 0 | 36 | 0 | 0 | 36 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 36 |
| 電 気 | 0 | 0 | 7 | 0 | 0 | 7 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 7 |
| 水 道 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 4 | 0 | 0 | 4 | 4 |
| 下水道 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 3 | 4 | 0 | 0 | 7 | 7 |
| 電話通信 | 0 | 0 | 2 | 0 | 0 | 2 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 2 |
| その他開発 | 3 | 1 | 1 | 0 | 0 | 5 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 5 |
| 小 計 | 22 | 36 | 110 | 2 | 0 | 170 | 0 | 3 | 15 | 0 | 0 | 18 | 188 |

表1 発掘調査一覧

| 番号 | 調査日 | 所在地 | 遺跡名 | 調査原因 | 調査面積 | 調査結果 | 担当者 | 備考 |
|----|--------------------|---------|------------|-------|----------------------|-----------|------|--------------------|
| 1 | R3/1/28・R3/1/25～29 | 錦織東一丁目 | 錦織遺跡 | 個人住宅 | 12 m ² | 遺構なし・遺物なし | 角南 | NK2020-1(本書) |
| 2 | R3/1/15 | 若松町西一丁目 | 中野遺跡 | 店舗 | 2.5 m ² | 遺構なし・遺物なし | 林 | |
| 3 | R3/2/4・2/22～27 | 甲田四丁目 | 甲田南遺跡 | 個人住宅 | 9.3 m ² | 遺構あり・遺物あり | 角南 | KDS2020-1(本書) |
| 4 | R3/2/8～4/20 | 中野町一丁目 | 中野遺跡、中野北遺跡 | その他建物 | 579.3 m ² | 遺構あり・遺物あり | 西村 | NNN2020-1 |
| 5 | R3/3/15～3/19 | 喜志町一丁目 | 喜志南遺跡 | 個人住宅 | 17.5 m ² | 遺構あり・遺物あり | 角南 | KSS2020-2(本書) |
| 6 | R3/4/9 | 西板持町五丁目 | 西板持遺跡 | その他開発 | 2.2 m ² | 遺構なし・遺物あり | 渡邊 | |
| 7 | R3/4/12～4/26 | 川面町一丁目 | 桜井遺跡 | 宅地造成 | 136 m ² | 遺構あり・遺物あり | 林・西村 | 遺跡範囲拡大SI2021-1 |
| 8 | R3/4/22 | 甲田一丁目 | 甲田遺跡 | その他建物 | 3 m ² | 遺構あり・遺物あり | 渡邊 | |
| 9 | R3/4/27 | 若松町二丁目 | 畠ヶ田遺跡 | 共同住宅 | 4.5 m ² | 遺構なし・遺物なし | 渡邊 | 遺跡範囲拡大 |
| 10 | R3/5/24 | 西板持町八丁目 | 西板持遺跡 | 宅地造成 | 4 m ² | 遺構なし・遺物なし | 渡邊 | |
| 11 | R3/6/8 | 喜志町一丁目 | 喜志南遺跡 | その他建物 | 1.8 m ² | 遺構なし・遺物なし | 林 | |
| 12 | R3/6/21 | 若松町四丁目 | 新堂東遺跡 | 宅地造成 | 5.1 m ² | 遺構なし・遺物なし | 西村 | |
| 13 | R3/8/23～9/17 | 喜志町一丁目 | 喜志南遺跡 | その他建物 | 84 m ² | 遺構あり・遺物あり | 西村 | KSS2021-1調査11の本調査 |
| 14 | R3/9/29 | 錦織中二丁目 | 錦織南遺跡 | その他建物 | 1 m ² | 遺構なし・遺物なし | 渡邊 | |
| 15 | R3/10/11 | 錦織北二丁目 | 細井磨寺、寺池遺跡 | その他建物 | 11.6 m ² | 遺構なし・遺物なし | 林 | |
| 16 | R3/10/27 | 中野町三丁目 | 中野北遺跡 | 宅地造成 | 1.5 m ² | 遺構なし・遺物なし | 林 | |
| 17 | R3/11/15～調査中 | 喜志町一丁目 | 喜志南遺跡 | 宅地造成 | 558 m ² | 遺構あり・遺物あり | 角南 | KSS2021-2試10の本調査 |
| 18 | R3/11/24～12/3 | 錦織北二丁目 | 細井磨寺 | 店舗 | 131.5 m ² | 遺構あり・遺物あり | 林・西村 | 遺跡範囲拡大予定R4年度に本調査予定 |
| 19 | R3/12/1 | 昭和町二丁目 | 新堂南遺跡 | 共同住宅 | 30 m ² | 遺構なし・遺物なし | 渡邊 | |
| 20 | R3/12/17 | 中野町三丁目 | 中野北遺跡、喜志城跡 | 宅地造成 | 3.6 m ² | 遺構あり・遺物あり | 渡邊 | R4.3～本調査中 |

表2 試掘調査一覧

| 番号 | 調査日 | 所在地 | 調査原因 | 調査面積 | 調査結果 | 担当者 | 備考 |
|----|---------|----------|-------|---------------------|-----------|-----|-------------------|
| 1 | R3/2/4 | 川向町 | 共同住宅 | 2.7 m ² | 遺構なし・遺物なし | 西村 | |
| 2 | R3/4/20 | 南大伴町一丁目 | その他建物 | — | 遺構なし・遺物なし | 渡邊 | 立会調査 |
| 3 | R3/5/7 | 中野町東二丁目 | その他建物 | 5 m ² | 遺構なし・遺物なし | 渡邊 | |
| 4 | R3/5/14 | 高辻台三丁目ほか | 宅地造成 | — | 遺構なし・遺物なし | 林 | 踏査 |
| 5 | R3/5/25 | 若松町東二丁目 | その他建物 | 4 m ² | 遺構なし・遺物なし | 渡邊 | |
| 6 | R3/8/6 | 桜井町 | 分譲住宅 | 5.2 m ² | 遺構なし・遺物なし | 林 | |
| 7 | R3/8/30 | 大字嬉 | 個人住宅 | 5.3 m ² | 遺構なし・遺物なし | 渡邊 | |
| 8 | R3/9/8 | 大字伏見堂 | その他建物 | 9 m ² | 遺構なし・遺物なし | 渡邊 | |
| 9 | R3/10/8 | 寿町四丁目 | 共同住宅 | 3 m ² | 遺構なし・遺物なし | 西村 | |
| 10 | R3/10/8 | 喜志町一丁目 | 宅地造成 | 19.5 m ² | 遺構あり・遺物あり | 角南 | 遺跡範囲拡大発掘調査17の試掘調査 |



図1 遺跡範囲拡大地点 ($S=1/5,000$)

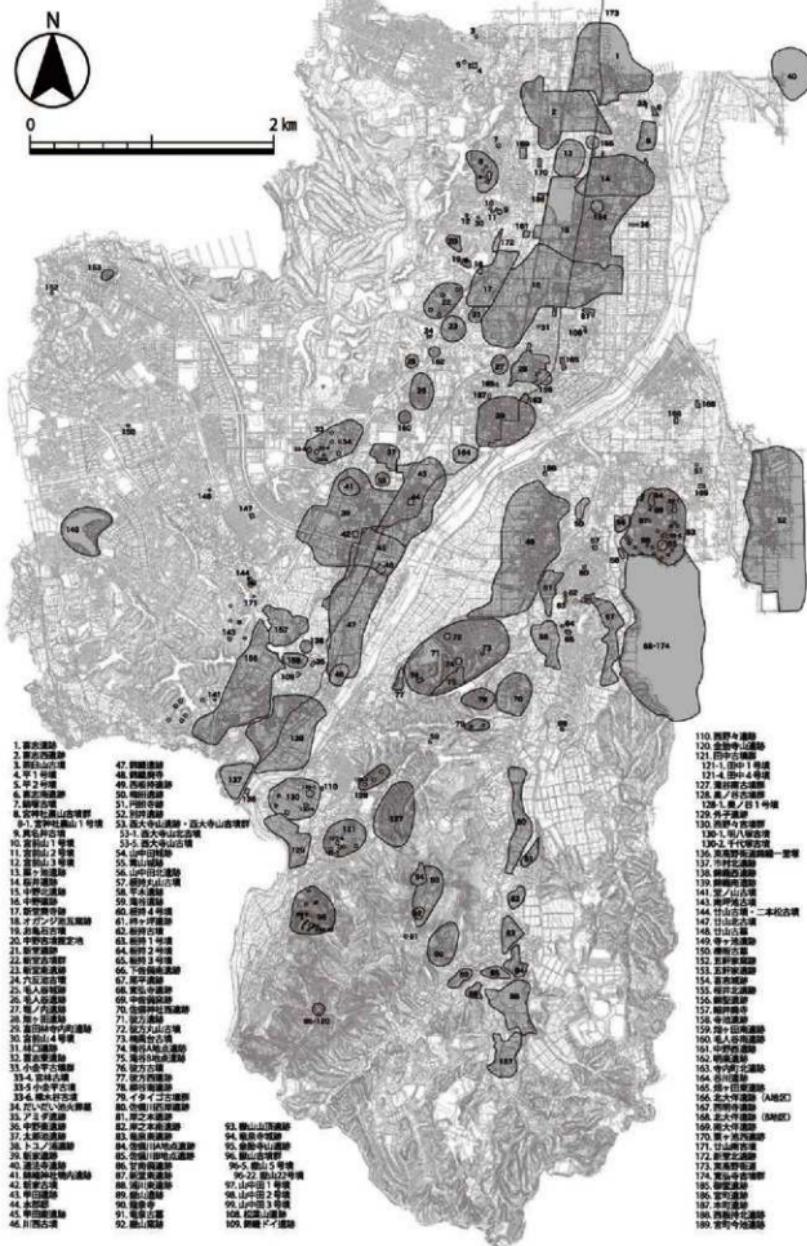


図2 市内古墳分布図 (S=1/40,000)

第2章 錦織遺跡（NK 2020-1）の調査

第1節 調査の経緯と経過

今回の調査地は、錦織東一丁目の錦織遺跡内に位置する（図3）。調査地のある住宅地一帯では、2015（平成27）年度から建て替えに伴う発掘届出書が2、3年に一度のペースで出されるようになってきており、工事に先立って浄化槽設置部分の発掘調査を実施している。まず、これらの調査成果について簡単に触れておきたい。

今回の調査地の南東約10mに位置する2015年度調査地（NK2015-1）では、埋没古墳の葺石とみられる遺構を確認するという、重要な成果が得られた（写真1・2）。葺石を埋めた土から瓦器が出土しており、古墳は中世以降に削平されたと考えられる。遺物としては埴輪も出土しているが、厚さ1m以上にも及ぶ宅地造成時の盛土内からの出土であり、この古墳に伴うものかどうかは不明である（富田林市教育委員会2017）。

住宅地の南端にあたる2017（平成29）年度調査地（NK2017-1）では、出土遺物の中に埴輪とみられるものが1点含まれていたものの、遺構は確認できず、埋没古墳に関する情報は得られなかつた（富田林市教育委員会2019）。

さて、今回の調査地については、2020（令和2）年11月に発掘届出書が提出されたことに基づき、同年12月28日に既存建物の解体工事に合わせて事前調査を行った。2015年度調査地で

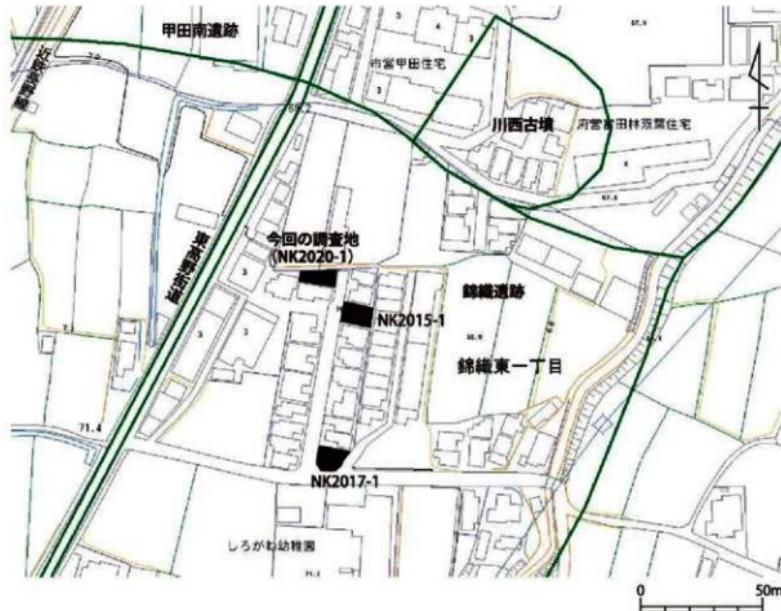


図3 調査位置図 ($S=1/2,000$)



写真1 2015年度調査地の葺石（北東から）



写真2 2015年度調査地の土層断面（北から）

中央から右下にかけての深掘り部分（事前調査による試掘坑）にみえるのが、円礫を多く含む黒褐色粘質土（墳丘盛土か）。左上にわずかに写るのが、写真1の葺石。

確認した埋没古墳の盛土と類似する黒褐色粘質土層を確認したため、翌年の2021（令和3）年1月25日から同月29日にかけて本調査を実施した。今回の計画では、浄化槽の設置だけでなく柱状改良工事が実施される予定であったため、建築予定部分も調査対象範囲として協議を行った。しかし、排土の置き場や安全面を考慮した結果、トレンチ調査とせざるを得なかった。

第2節 調査の成果

建築予定部分において、東西約6m、南北約2mのトレンチを設定した（図4）。これまでと同様に宅地造成時の盛土層が厚く、遺構面が深い位置にあるため、トレンチ法面の傾斜角度をつけたうえで南半分は旧耕作土内までの掘削とした。よって、実質的な遺構面の調査範囲としては 1.3 m^2 しかない。

層序は、現況面から順に宅地造成時の盛土層（土層番号1）、旧耕作土層（番号2～4）、旧床土層（番号5）、褐灰色粘質土層（番号6）、黒褐色粘質土層（番号7）で、その下にある地山と判断した層は黄褐色砂礫層（番号8）、灰黄褐色砂礫（番号9）、にぶい黄褐色砂礫（番号10）の3種類を確認した（図5、図版1）。

トレンチ底の東側で検出した灰黄褐色砂礫の地山（番号9）は、それ以外の範囲で検出した黄褐色砂礫の地山（番号8）の下に潛り込んでいくような堆積となっている。地山以外の全体の土層も、西側に向かってわずかに下降する状況がみられ、石川に向かって西から東へ下降する現在の地形と単純に一致していないことは、今後周辺で調査を行う際に留意すべき点である。

遺構の有無については、各層を掘り下げていく過程で確認した。トレンチほぼ中央の黄褐色砂礫（番号8）上面で土坑状のものを検出したが（図版1中央）、最終的には人為的なものではない浅い落ち込み部分に、直上の黒褐色粘質土（番号7）が溜まったと判断した。

遺物が出土したのは、旧床土層（番号5）から黒褐色粘質土層（番号7）にかけてであり、褐灰色粘質土層（番号6）からが最も多かった。旧床土層（番号5）と褐灰色粘質土層（番号6）から出土した遺物は、厳密に分けることができない出土状況であったため、一括して記載する。土器は須恵器と土師器があるが、いずれも小片で時期の判別は難しい。ただし、前者には突出度の低いかえりをもつ壺蓋が1点含まれており、飛鳥時代のものではないかと考えられる。黒褐色粘質土層（番号7）からは土師器のみが出土しているが、時期の判別は難しい。

今回の調査範囲では遺構を確認できず、埋没古墳に直接関わる知見は得ることができなかつた。しかし、事前調査時に推定したように、古墳盛土と判断したものと類似する黒褐色粘質土が今回の調査地にもみられたことについて、もう少し言及しておきたい。両調査区の黒褐色粘質土が、土質・土色が類似する（ただし、今回の調査区の方が含まれる円礫の量が少ない）ということだけで同一のものと断定することはできないが、土器片を包含するという点でも共通しており、2015年度調査地では土師器だけでなく須恵器も出土している。もちろん、埋没古墳と確定した訳ではなく、いわゆる豪族居館にみられる濠のように、法面を護岸した遺構の可能性も残されている。いずれにせよ、黒褐色粘質土に含まれる遺物の時期が特定できれば、遺構が構築された時期を推定する大きな手がかりとなる。今後は、周辺での開発行為に対して十分に注意するとともに、川西古墳も含めた一帯のこれまでの調査成果を、総括的に検討することが必要である。

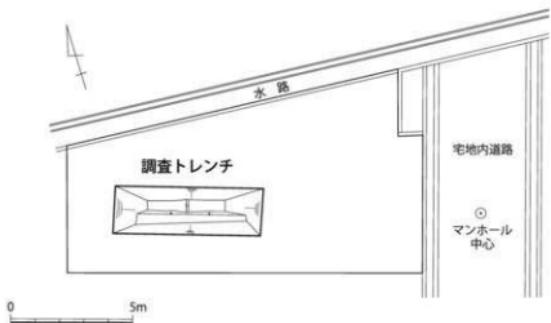
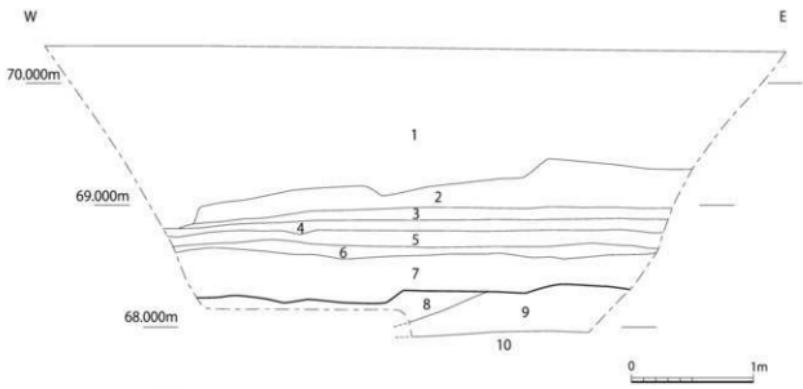


図4 トレンチ配置図 ($S=1/200$)



1. 盛土
2. 旧耕作土
3. 旧耕作土（床土が混じる）
4. 旧耕作土
5. 旧床土
6. 7SYR 4/1 褐灰色粘質土（7番に比べると細かい砂礫が多く混じり、粘性も弱い）
7. 7SYR 3/2 黒褐色粘質土（粘性やや強い）
8. 10YR 5/6 黄褐色砂礫（やや粘性あり。10YR 5/2 黄褐色粘質土が粒状に混じる）【地山】
9. 10YR 5/2 灰黄褐色砂礫（10YR 5/4 にぶい黄褐色砂礫が少量混じる。
15cm 前後の円礫を多く含み、堅く締まる）【地山】
10. 10YR 5/4 にぶい黄褐色砂礫【地山】

図5 トレンチ北壁断面図 ($S=1/40$)

第3章 甲田南遺跡（KD2020-1）の調査

第1節 調査の経緯と経過

今回の調査地は、甲田四丁目の甲田南遺跡内に位置する。西側の一段上がった中位段丘上の縁辺には、古墳時代中期の円墳とみられる新家古墳がある（図6）。

個人住宅の建て替えに伴い、2021（令和3）年1月に発掘届出書が提出された。これを受け、同年2月4日に事前調査を実施したところ、多数の遺物を含む包含層を確認した。事前調査は、切土が予定されている建築範囲外（駐車場等が予定されているスペース）で行ったが、切土の深さは包含層に及ばないことが分かった。しかし、建築範囲で柱状改良工事が予定されていたため、それを対象とした本調査を行うことになった。

宅地内の盛土が厚さ1m前後に及ぶため、堆土の置き場や安全面を考慮した結果、トレーニング調査とせざるを得なかった。本調査期間は、同年2月22日から同月27日である。

第2節 調査の成果

建築予定部分に、一辺約3m前後のトレーニングを設定した（図7、写真3）。層序は現況面から順に、盛土層（番号1）、旧耕作土層（番号2～3）、旧床土層（番号4）、オリーブ黄色粘質土層（番号5～6）、灰黄褐色砂礫層（番号7）、橙色砂礫層（番号8）であり、地山は灰白色粘質土層（番号9）である（図10）。現況面と宅地内道路面の比高差が、ほぼ盛土の厚さに相当する。

遺物は旧耕作土層（土層番号2～3）から遺構面までの層で出土し、オリーブ黄色粘質土層（番号5～6）および灰黄褐色砂礫層（番号7）の包含層に多く含まれていた。ほとんどが小片であるが、包含層だけで250点以上の遺物が出土しており、調査面積を考えれば多いといえるだろう。

種類は土師器、須恵器、瓦、サヌカイト製の石器（剝片）などがある。ほとんどが時期の判別できないものであるが、須恵器は高壺の脚部や蓋壺の特徴から、6世紀代から8世紀代までの幅広い時期のものが出土している。

地山面直上の橙色砂礫層（番号8）には遺物が含まれず、この面でピット（SP1）と落ち込み（SX2・3）を検出した（図8・9、写真4、図版2）。SX2埋没後に構築されたSP1は、遺構面からの深さが19cmしかなく、上面が削平されていることがうかがえたが、柱痕の可能性がある部分（番号13）を確認できた。しかし、いずれの遺構からも遺物が出土しなかったため、所属時期は明らかでない。



図6 調査位図 (S=1/3,000)

このように極めて限られた調査範囲であったが、1基だけとはいえ柱穴とみられるピットを検出することができた。このことは、包含層に含まれる多量の遺物が、単に中位段丘上から流出したものとして片付けるべきではないことを物語っている。今後の周辺での開発に注意したい。



図7 トレンチ配置図 ($S=1/200$)

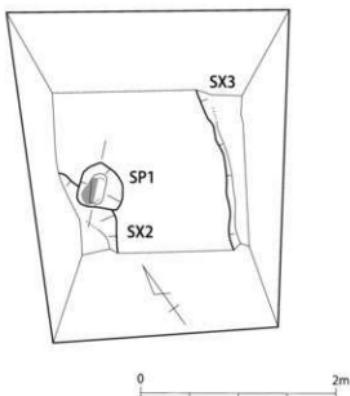
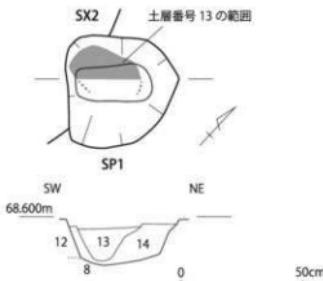


図8 トレンチ平面図 ($S=1/50$)



- 13. 10YR 3/2 黒褐色粘質土 【SP1 埋土。柱痕か】
 - 14. 10YR 5/2 底黄褐色砂礫
（10YR 3/2 黒褐色粘質土が粒状に混じる）
【SP1 埋土】
- ※土層番号8、12は図10に対応

図9 遺構断面図 ($S=1/20$)

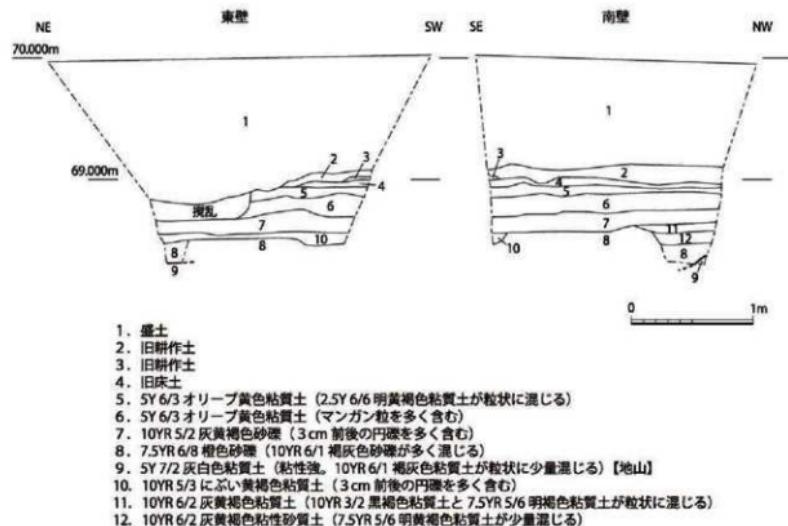


図 10 トレンチ東壁および南壁面図 ($S=1/40$)



写真3 トレンチ全景（北から）



写真4 SP 1 土層断面（南東から）

第4章 喜志南遺跡 (K S S 2 0 2 0 - 2) の調査

第1節 調査の経緯と経過

喜志町一丁目および川面町一丁目に所在する喜志南遺跡は、低位段丘上に広がる集落跡である（図11、写真5・6）。当遺跡における初の本格的な調査は、宅地造成に伴う1997（平成9）年度の発掘調査である。縄文時代晚期の土坑が見つかり、人為的な造構に伴う市内での数少ない縄文時代の資料として、貴重な成果が得られた（富田林市遺跡調査会1998）。2008（平成20）年度に遺跡範囲の南側で、再び宅地造成に伴う発掘調査があったが（富田林市教育委員会2008）、その後は大きな開発行為を受けることなく残されてきた。

しかし、2014（平成26）年度以降は開発行為が相次ぎ、遺跡の複雑な様相が急速に明らかになってきている。宅地造成に伴う2014年度の発掘調査では、縄文時代後期から晩期にかけての複数型式にわたる土器と、晩期の土器埋設造構を確認したほか、初期須恵器の出土、5世紀前半の円筒埴輪片を床面に敷き詰めた特異な小石室（喜志南1号石室）の確認といった、めざましい成果が得られた（富田林市教育委員会2021）。2018（平成30）年度には、その宅地内道路を南に延伸する形で宅地造成が計画され、発掘調査で多数の中世の造構、遺物を確認した。所属時期は12世紀後半から14世紀までが中心であり、村落内に仏堂が存在した可能性がある（西村2020、富田林市教育委員会2021）。中世の造構、遺物は2014年度調査地でも確認していたが、その数は多くなく、逆に2018年度調査地では古墳時代の造構、遺物はほとんど確認できていない。

さらに、2021（令和3）年度には、遺跡範囲の北端でグループホームの建設に伴う発掘調査を実施し、整地土内から5世紀代の大量の円筒埴輪のほか、少量だが初めて形象埴輪も見つかった。



図11 周辺の遺跡（左：S=1/10,000）と調査位置（右：S=1/4,000）



写真5 2014年度調査地（中央下）と今回の調査地（矢印）

（北から、2015年5月撮影）

調査地のすぐ東側は段丘崖で、石川の河川敷が迫っている。



写真6 2021年度調査地（中央が2021-2地点）と今回の調査地(矢印)

（北から、2022年1月撮影）

2021-2地点の調査区東側に迫る段丘崖は、調査区の北側で西にやや入り込んでおり、遺跡の範囲を考える材料となる。

続く同年度には、遺跡北端から北へ約60mの地点で宅地造成に先立ち試掘調査を実施し、これまでの喜志南遺跡出土のものと関連するとみられる埴輪が出土したことから、「飛び地」状に遺跡範囲を拡大した。その後の本調査では、包含層や落ち込み内から円筒埴輪に加え、器財、人物、動物などの豊富な種類の形象埴輪が大量に出土しており、5世紀後半ごろの埋没古墳が存在した蓋然性が高まっている（両調査地の出土遺物は、現在整理作業中である）。

今回の調査地は2018年度調査地に接しており、すでに整備されている宅地内道路に取り付く。

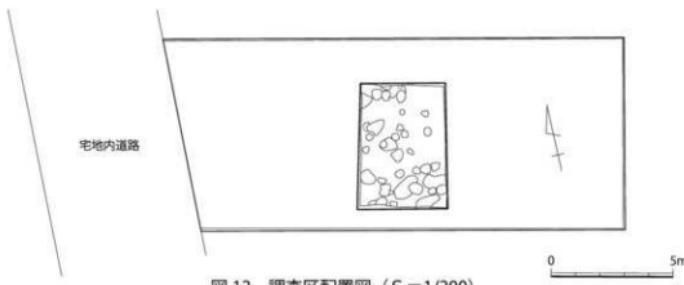


図 12 調査区配置図 ($S = 1/200$)

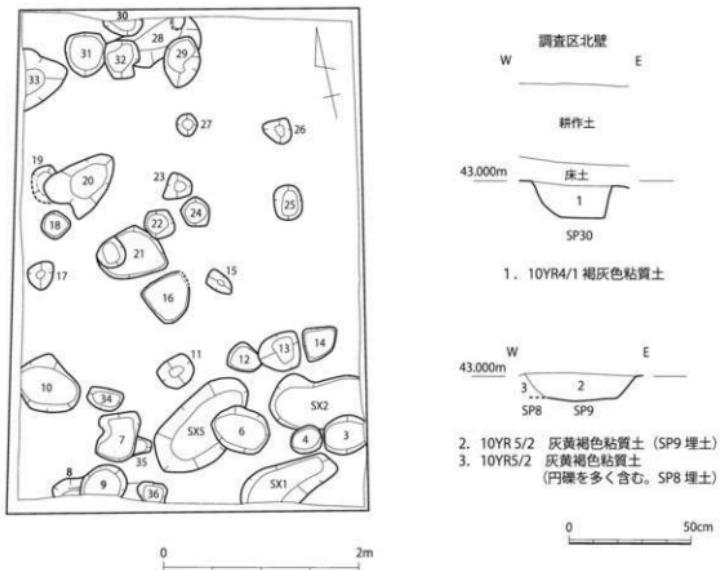


図 13 遺構平面図 ($S = 1/50$)

図 14 遺構断面図 ($S = 1/20$)

しかしながら当時の開発区域外であり、北に隣接する2020（令和2）年度調査地（富田林市教育委員会2021）と同様、追加で宅地に取り込まれることになったものである。発掘届出書は2021年2月に提出され、遺構、遺物の存在は確実であったことから事前調査は行わず、同年3月15日から同月19日にかけて本調査を実施した。

第2節 調査の成果

調査区は建物の基礎形状等を考慮し、建築予定範囲内に南北約5m、東西約3.6mで設定した（図12）。調査前の耕作土、床土の直下が明褐色砂礫の地山となっており、地山面上で多数のピット、落ち込みを確認した（図13、図版3・4）。包含層などの堆積層は認められず、遺構面は後世の削平を受けていると考えられる（図14）。

遺物（図15、図版4）については、地山面に至るまでの掘削で土師器、瓦器、瓦質土器、瓦、サヌカイト製の石器（剥片）が出土しており、ここに掲げた瓦器塊（図15-2）と中国製白磁碗（図15-3）もその際に出土したものである。瓦器塊は、12世紀末から13世紀初頭のものと考えられる。

遺物が出土した遺構はSP 3・8・9・18・19・24・25・29・30、SX 1・5であり、種類としては縄文土器、土師器、須恵器、瓦器、サヌカイト製の石器（剥片）がある。確実に縄文土器といえるものが出土したのは、SP 8・9である。図に掲げた縄原式のものと考えられる縄文土器（図15-1）は、接合した4片のうち1片がSP 8から、残りがSP 9から出土した。切り合い関係のある遺構としてそれぞれ別の遺構番号を付与したが、一体の遺構の可能性もあるだろう（図14）。両ピットには明確に中世遺物と判断できるものは含まれず、SP 9にはほかにも胎土、色調からみて縄文土器と考えられる土器片が出土しているため、どちらも縄文時代の遺構である可能性を指摘しておきたい。このほかのSP 8・9を除く遺物が出土した遺構については、ほとんど中世に属するものと考えられる。

このように今回の調査地においては、近接する2018年度および2020年度調査地の出土遺物と顔のない時期のものが出土した。遺構の評価については、それらの調査地の成果と合わせて行いたい。

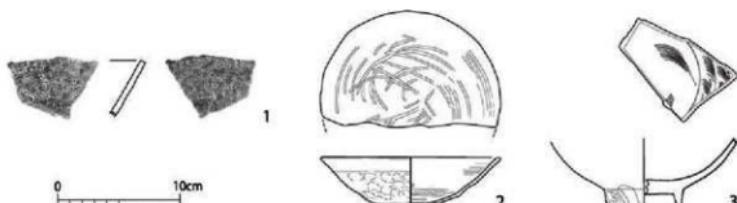


図15 出土遺物実測図 (S=1/4)

参考・引用文献

- 富田林市遺跡調査会1998『喜志南遺跡』
- 富田林市教育委員会2008『甲田遺跡・喜志南遺跡発掘調査報告書』
- 富田林市教育委員会2017『平成28年度 富田林市内遺跡群発掘調査報告書』
- 富田林市教育委員会2019『平成30年度 富田林市内遺跡群発掘調査報告書』
- 富田林市教育委員会2021『令和2年度 富田林市内遺跡群発掘調査報告書』
- 富田林市教育委員会2021『喜志南遺跡－宅地造成に伴う発掘調査（KSS2014-1）－』
- 西村雅美2020「富田林市喜志町 喜志南遺跡」『歴史発掘おおさか2019－大阪府発掘調査最新情報－』 大阪府立近つ飛鳥博物館

図 版



近鉄川西駅ホームからみた新家古墳（右後方）と
甲田南遺跡（左下が調査地）





遺構完掘状況（北西から）



トレンチ東壁（北西から）



トレンチ南壁（北東から）



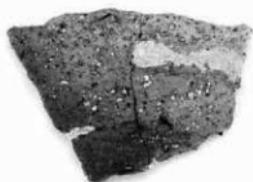
遺構完掘状況（西から）



遺構完掘状況（東から）



遺構完掘状況（北東から）



1



2



—



3

出土遺物

報告書抄録

| | |
|--------|---|
| ふりがな | れいわさんねんど とんだばやししないいせきぐんはつくつちょうさほうこくしょ |
| 書名 | 令和3年度 富田林市内遺跡群発掘調査報告書 |
| 副書名 | |
| 巻次 | |
| シリーズ名 | 富田林市文化財調査報告 |
| シリーズ番号 | 75 |
| 編著者名 | 角南 辰馬、渡邊 晴香 |
| 編集機関 | 富田林市教育委員会 |
| 所在地 | 〒584-8511 大阪府富田林市常盤町1番1号 TEL 0721-25-1000 (代) |
| 発行年月日 | 2022(令和4)年3月31日 |

| ふりがな 所収遺跡名 | ふりがな 所在地 | コード | | 北緯 | 東経 | 調査期間 | 発掘面積 (m ²) | 調査原因 |
|--------------------|--|-------|------|-------------------|--------------------|---------------------------|---------------------------|------------------|
| | | 市町村 | 遺跡番号 | | | | | |
| にしこおりいせき 錦織遺跡 | とんだばやしにしこおりひがし いっちょうめ 富田林市錦織東一丁目 | 27214 | 47 | 34° 29' 19" | 135° 35' 25" | 20201228 ～ 20210129 | 12 | 記録保存調査 (個人住宅) |
| こうだみなみいせき 甲田南遺跡 | とんだばやしこうだよんちょうめ 富田林市甲田四丁目 | 27214 | 45 | 34° 29' 29" | 135° 35' 23" | 20210204 ～ 20210227 | 9.3 | 記録保存調査 (個人住宅) |
| きしみなみいせき 喜志南遺跡 | とんだばやしきしきょう いっちょうめ 富田林市喜志町一丁目 | 27214 | 6 | 34° 31' 17" | 135° 36' 55" | 20210315 ～ 20210319 | 17.5 | 記録保存調査 (個人住宅) |

| 所収遺跡名 | 種別 | 主な時代 | 主な遺構 | 主な遺物 | 特記事項 |
|-------|-----|---------------|--------------|--------------------|------|
| 錦織遺跡 | 集落跡 | 古墳時代 ～飛鳥時代 | 墳丘盛土か | 土師器、 須恵器 | |
| 甲田南遺跡 | 集落跡 | 古墳時代 ～奈良時代 | ピット、 落ち込み | 土師器、 須恵器 | |
| 喜志南遺跡 | 集落跡 | 縄文時代 ～中世 | ピット、 土坑 | 縄文土器、 瓦器、 白磁 | |

令和3年度 富田林市内遺跡群発掘調査報告書

発行年月日 2022（令和4）年3月31日

編集・発行 富田林市教育委員会

住 所 富田林市常盤町1番1号

印 刷 明朗社

2022. 300